

福山市立女短大

加納三子

〔目的〕 食生活において、主婦が食品選択をする場合、食品知識のみでなく、社会意識等も影響を与えていることが考えられる。演者は前報までに、主婦の女性観が食生活意識や食生活の実態に影響を与えていることを報告して来た。本報では、女性観と健康状況と食品摂取状況との関連について検討を加えた。

〔方法〕 対象：F市役所既婚女子組合員；調査期間：昭和55年6月24日より1週間の据置調査；調査内容：社会意識，女性観，食生活意識，食生活の実態，健康状況；なお健康状況はTHI法による得点化を行い，食品の摂取状況は摂取頻度と得点化によった。

〔結果〕 1. 健康状況の良いものほど基礎的な食品をよく摂取しており、不健康なものほど加工食品，嗜好食品をよく摂取していた。2. 健康なものほど摂取頻度が高い食品としては，海藻類，芋類，トーフがみられ，不健康なものほど摂取頻度が増す食品としては，ケーキ類，スナック菓子類，乳酸飲料，ジュース類，コーラ類であった。3. 社会型で健康なグループは，卵，肉類，練製品，ラーメン，コーラ類，ジュース類の摂取頻度が低く，芋類，トーフ，海藻類，野菜類の摂取頻度が高かった。社会型で不健康なグループは，肉，魚，練製品の摂取頻度が高く，海藻類，アイスクリームなどの嗜好品の摂取頻度が低かった。家庭型で健康なグループは，肉，魚，海藻，練製品，冷凍食品，嗜好食品の摂取頻度が低かった。家庭型で不健康なグループは，芋類，トーフ等の摂取頻度が低く，卵，牛乳，ジュース類，コーラ類，乳酸飲料などの摂取頻度が高かった。